

3. 状況を説明しながら

視覚に障害のある方は周囲の状況を十分に把握できないので移動中も不安です。ですから周囲の状況を説明しながら歩くことが重要です。

切れた電線、倒れたブロック塀の位置や状況、避け方などはより具体的に。

例) × 「あっちに行きましょう」「そこは危険です」

○ 手をとって具体的な方向を示す。

○ 「右に」「何メートルくらい」「何歩」など具体的な言葉で。



4 段差・階段では・・・

①いったん止まります。

②「下りの階段です」「上りの階段です」と声をかけます。

必ず、「下り」か「上り」かをいいます。

5 “止まるとき”、“歩き始めるとき”は、一声かけて

「さあ、行きましょうか」や「止まりましょう」など声かけを忘れないように。特に、黙って止まらないようにしましょう。

- 盲導犬を伴っている人に対しては、直接盲導犬を引いたりさわったりせずに、方向を説明しましょう。



2. 聴覚障害のある方をサポートするとき

聴覚に障害があるということ

聴覚に障害があるということは、音による情報のやりとりが難しいということです。災害時は情報の多くが「音声」によって伝達されるため、聴覚に障害のある方は、必要な情報の入手が困難になります。

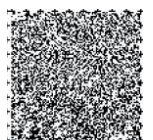
情報を伝達する方法には、手話だけではなく、身振り・筆談・その他いろいろな方法があります。複数の方法を用いたコミュニケーションをとってみましょう。

 ポイントは「情報の伝達」です

揺れを感じたら

◇ 安全確保

メモや身振り手振りなどで身を守るよう指示します。



揺れがおさまったら

◇ 安全な避難

火事など急いでいるときには、わかりやすい身振りで伝えます。

情報伝達のしかた

◇ 話し始めは、合図を

どんな方法で会話をする時も、まず相手の視野に入り、合図をします。

◇ 筆談

筆記は紙だけではありません。

手のひら、空中(空書といいます)、背中に指で書いて伝えることもできます。



◇ 口の動きで伝える

顔を真っすぐに向け、口をきちんと開けて普通に話しましょう。文章の流れから言葉を判断しますので、一文字毎に区切るのではなく、句読点で区切って伝えましょう。

例) × ひ・な・ん・し・ま・し・よ・う
○ ひなん しましょう

◇ その他の方法

身振り、絵、図などがあります。本人の希望する方法で行ないましょう。

夜間の緊急連絡

◇ 懐中電灯などで合図を

本人が睡眠中などで気付かない場合は、懐中電灯などで合図しましょう。あらかじめ話し合っておくことが大切です。

電話の代理を依頼されたら

電話の相手の返事などは筆記して渡すようにします。

